



# 改憲を阻止し平和憲法を守ろう！ 平和といのちと人権を守る12.8川崎集会

日本がハワイ真珠湾への奇襲攻撃をおこなって、無謀な太平洋戦争に突入した1941年から82年目の12月8日、建交労神奈川県南支部事務所にほど近い川崎市川崎区内の東田公園（例年の稲城公園から変更）で“平和といのちと人権を守る12.8川崎集会”が18:30から開催され約120人が参加しました。



集会会場の公園で横断幕を掲げる参加者



川崎労連・吉根事務局長の挨拶

県南支部からは金崎書記長と赤羽氏の2名が参加しました。

主催は川崎労連をはじめ建設組合、医療生協、民主商工会、新婦人の会、弁護士、政党など川崎市内で活動する平和・民主団体です。昨年2月24日からのロシアによるウクライナ侵攻がつづくなか、今年10月7日にはパレスチナの政治組織（戦闘集団）ハマスとイスラエルの戦闘が開始され、パレスチナガザ地

区的一般市民がイスラエル軍からの激しい無差別攻撃を受けています。現時点で既に6000～7000人ともいわれる子供たちと高齢者・女性を中心に1万人を超える一般市民が殺害され、民族を滅ぼす集団殺戮（ジェノサイド）が行われています。

こうした非常事態を反映した今年の“12.8川崎集会”はイスラエルのガザ地区無差別攻撃とロシアのウクライナ侵攻を一刻も早く止めさせるために緊急行動を起こすことを確認する内容となりました。集会での各団体の代表者による挨拶も



畑野きみえ前衆議院議員の挨拶



のぼり旗とランタンを持ってデモ行進をする県南支部の金崎書記長

イスラエルによるガザ地区への無差別攻撃即時全面中止を求めると同時に、イスラエルのガザ地区無差別攻撃を“自衛手段”として擁護しているアメリカ政府を批判し、アメリカ政府の顔色を伺ってイスラエルの暴挙を事実上容認している日本の岸田政権を糾弾し政権交代・退陣を求める内容となりました。

集会後には、参加者がランタンを持ってJR川崎駅東口までの繁華街を“ガザ地区の住民を守れ”“ウクライナ市民を守れ”とシュプレヒコールしてデモ行進しました。